



# 夏バテした土を元気に!

夏の日照りや頻繁な水やりでダメージを受けた土をどうしていますか。捨てたいけれど、捨てられない? いえいえ、捨てるなんてもつたない! 上手に再生して、秋の園芸シーズンに備えましょう。



パンジーやピオラは、植え付け時にアブラムシ対策として、土に混ぜるタイプの殺虫剤を入れておく効果的

## 「捨てずに生かす」

夏の頻繁な水やりで、土はダメージを受けています。栄養分は流失し、土が細かくなり、水はけや通気性も悪化、有用な微生物がすめなくなっています。そんな土に苗を植えても元気に育ちません。でも、エコな時代のガーデナーは、古い土を「捨てずに生かす」気持ちを持ちたいですね。ちよつとした作業で、根が空気や水を十分吸え、成長しやすい土に再生することができます。

## 「土を改良する」

- ポイントの水はけ、通気性、栄養状態の改善です。
- ① 土をコンテナから出して広げ、古い根や落ち葉などを取り除き、日に干してよく乾燥させる。
  - ② 乾かした古土2・赤玉土の小粒1・腐葉土(または土のリサイクル材)1の割合でよく混ぜる。通気性、排水性が良くなり、有用な微生物のすみやすい土になる。
  - ③ 苦土石灰を混ぜる(市販のプランターなら一握り)。酸性に偏った土を中和し、不足しやすいカルシウムを補給する。
  - ④ ミネラルを配合した肥料(微粉ハイポネックスなら水で薄めずに、市販のプランターで5g)を混ぜる。ミネラルを失った土の基礎体力が改善される。
  - ⑤ 生育のための元肥を入れる(マグアンプKなどの緩効性化成肥料を規定量の2/3程度)。根の生育が促されて植物が丈夫になり、長く楽しめる。

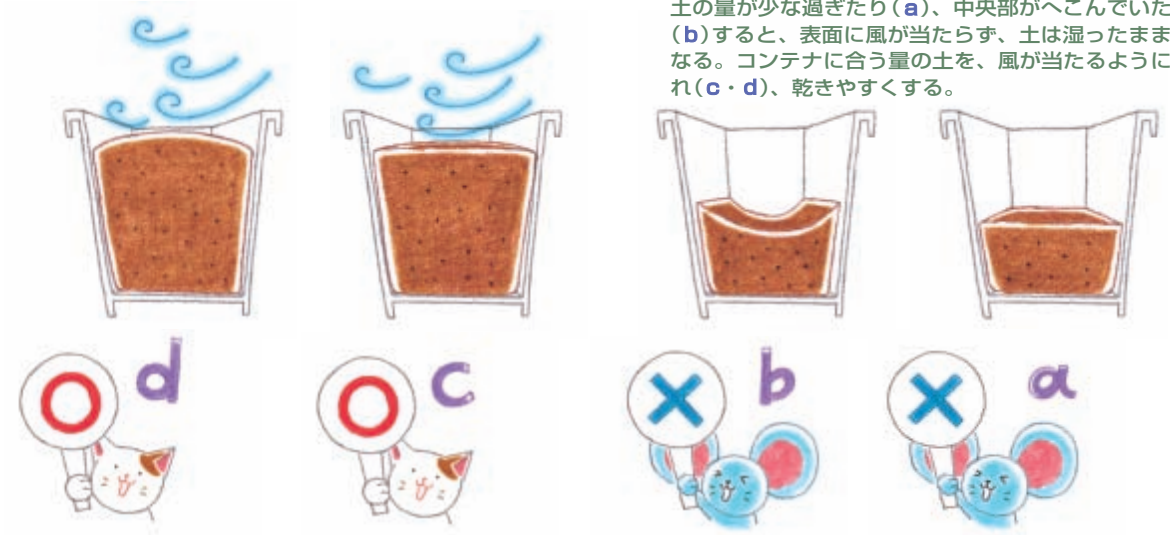
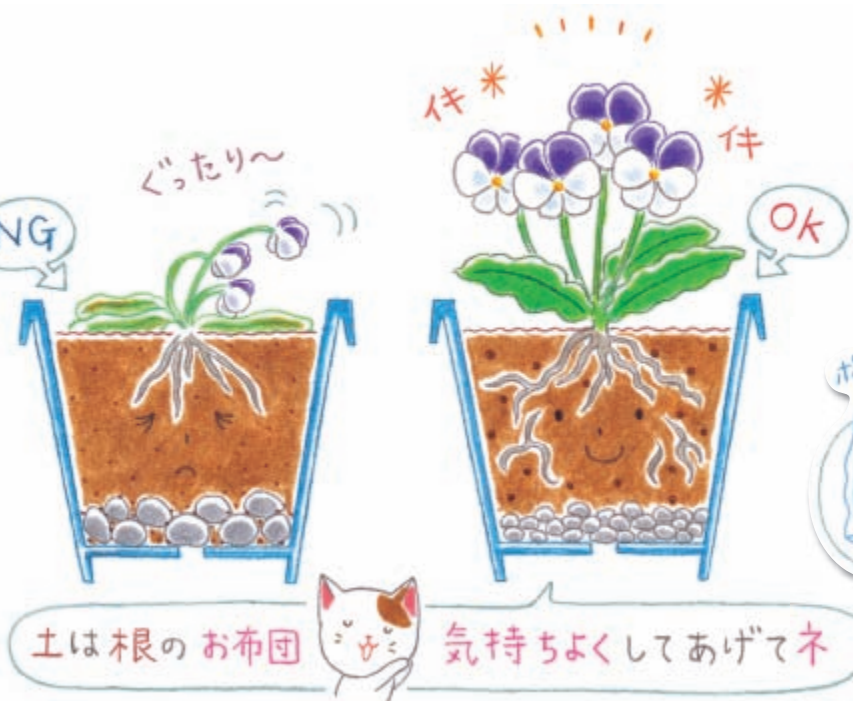
これで、土の再生は完了。苗を植え付けたら、3〜4週間後から11月下旬までは、リン酸成分の多い液体肥料を追肥します。以後は3月上旬まで施肥を控え、コンパクトな強い株に育てましょう。

夏の間を目詰まりしてしまった古い土も、よく乾燥させ、水はけや通気性を良くし、栄養分を補うとよみがえる。鉢底石は、粒が大きいとすき間に土が入り込んでしまう。軽石の中粒程度がお勧め。



肌が敏感な人は、ポリ袋に手を入れて苦土石灰を混ぜると手荒れが防げる。

土の量が少な過ぎたり(a)、中央部がへこんでいたり(b)すると、表面に風が当たらず、土は湿ったままになる。コンテナに合う量の土を、風が当たるように入れ(c・d)、乾きやすくする。



●「緑と暮らそう」のバックナンバーは本誌ホームページで見られます。ネコ太・チュウ太も活躍していますよ! お気楽Life、今まで身に着けた衣装やかぶり物、たくさんのともだち...かわいい姿が満載です。「読売ライフ」で検索してみてください。